



2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日

上場会社名 株式会社アイキューブドシステムズ 上場取引所 東
 コード番号 4495 URL <https://www.i3-systems.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 執行役員社長 CEO (氏名) 佐々木 勉
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部部長 (氏名) 小野 崇 (TEL) 092-552-4358
 四半期報告書提出予定日 2023年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・個人投資家 向け)
 (百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第2四半期の連結業績(2022年7月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	1,314	9.1	312	△31.1	311	△31.3	211	△32.5
2022年6月期第2四半期	1,205	—	453	—	453	—	314	—

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 211百万円(△32.6%) 2022年6月期第2四半期 314百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	40.15	39.65
2022年6月期第2四半期	59.88	58.72

(注) 当社は、2022年6月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2022年6月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	3,246	2,338	71.9
2022年6月期	3,202	2,223	69.3

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 2,333百万円 2022年6月期 2,220百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2023年6月期	—	0.00			
2023年6月期(予想)			—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,734	11.4	657	△20.5	658	△19.5	452	△16.2	85.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年6月期2Q	5,281,350株	2022年6月期	5,274,850株
2023年6月期2Q	168株	2022年6月期	121株
2023年6月期2Q	5,277,737株	2022年6月期2Q	5,244,767株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における経済環境は、海外観光客の入国制限が緩和され、社会経済活動を再開させる動きが進む一方で、ウクライナ情勢の深刻化や原油をはじめとする資源価格の高騰、各国の金融政策の動向などに対する懸念が長期化しており、引き続き先行き不透明な状態が続きました。

このような市場環境の中、当社グループは2020年7月の上場以降を第3創業期と捉え、2022年6月にコーポレートブランドを刷新しました。パーパスを「笑顔につながる、まだ見ぬアイデア実現の母体となる」、提供価値を「デザインとエンジニアリングの力で、挑戦を支える」と定義した上で、「挑戦を、楽しもう。」をブランドスローガンに掲げ、挑戦的な文化を醸成し、ITを軸とした様々な挑戦を積極的に進めていく企業を目指しております。

また当社は、Great Place to Work® Institute Japanが世界共通の基準で従業員の意識調査を行う、2023年版「働きがいのある会社」ランキングにおいて、3年連続で働きがいのある会社として認定されました。当社は、全社的なリモートワーク体制と、コアタイムを設けないフルフレックスタイム制を採用しており、柔軟な働き方の実現を推進しております。また、性別や国籍、居住地を問わない採用活動により多様性のある組織づくりを推進するとともに、人材育成のための研修などの成長支援を通じて、挑戦を積極的に行う文化の醸成に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間においては、主軸事業であるCLOMO事業は、法人利用向けスマートフォンの調達不調が続くなど外部環境の影響を受けながらも導入法人数が堅調に増加したことで売上高が拡大しました。また、製品開発力の増強を目的に、新たに開拓した委託先企業と積極的に開発投資を進めたことで、ソフトウェア製品のリリースが増加し減価償却費を含む売上原価が前年同期比で増加しております。販売費及び一般管理費については、営業拠点の拡大に伴う人材の増強や、情報セキュリティ体制強化に向けた投資に加えて、給与体系及び評価制度の見直しによる従業員給与のベースアップを図っており、人的資本に対する投資にも取り組んでまいりました。

このような取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,314,745千円（前年同期比9.1%増）、営業利益312,559千円（前年同期比31.1%減）、経常利益311,512千円（前年同期比31.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益211,893千円（前年同期比32.5%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① CLOMO事業

CLOMO事業においては、2010年から提供を開始したモバイル端末管理サービス「CLOMO MDM」及びモバイル端末向けアプリサービス「CLOMO SECURED APPs」（以下、CLOMOサービスとする）を事業の主軸に、クラウドを利用したB to BのSaaS事業をサブスクリプションの形で提供しており、2022年12月に公表されたMDM市場（自社ブランド）シェアにおいて、2011年度から12年連続でシェアNo. 1を達成しました（注1）。

当第2四半期連結累計期間においては、北海道、宮城県、愛知県に新たな営業拠点を開設しました。当連結会計年度において計画していた営業拠点の新設が完了し、全国の顧客に対する支援体制を強化しております。また、主要な販売パートナーである株式会社NTTドコモが提供を開始した「あんしんマネージャーNEXT」（注2）へ、CLOMO MDMのOEM提供を開始しており、販売エリアの拡大と販売パートナーとの協業加速を通じて、CLOMOサービスの販売拡大に取り組んでおります。

機能面においては、サイバー攻撃などの様々な脅威からモバイル端末を守り、顧客が安心・安全にモバイル端末を利用できるよう、CLOMOサービスとエンドポイントセキュリティソリューションとの連携を進めております。その上で、2022年10月より、Deep Instinct社が開発・提供をする「Deep Instinct」（注3）とCLOMO MDMを組み合わせた「CLOMO MDM エンドポイントセキュリティ secured by Deep Instinct」の提供を開始しました。

また、モバイル端末の導入時に必要な端末の初期設定などの作業を代行する新サービスとして「CLOMO キットアップサービス」を開始しました。CLOMO MDMの初期設定を支援する「サポートチケット」や、運用を代行する「CLOMO 運用代行サービス」などのサービスも提供しており、モバイル端末の導入から運用まで幅広くサポートするサービスメニューの拡充により、顧客企業でMDMを運用する担当者の業務負荷軽減に貢献するとともに、ライセンス継続率とARPUの向上に取り組んでおります。

さらに、業務効率化やデジタル化を進めている医療機関におけるモバイル端末管理、リモートワークでのIT資産管理、製造業や運送業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）推進に伴う業務専用端末管理など、社

会変化に伴う新たなMDMの需要に対しては、導入事例記事を積極的に公開し、CLOMOサービスの活用方法や品質について理解促進を図るほか、当該分野に強みを持つ新たな販売パートナーの開拓を進めております。また、2022年9月に公開したオウンドメディア「なるモ」にてモバイル端末の活用に関する情報記事を継続的に作成し、ブランド認知度及びMDM導入率の向上に向けた啓蒙活動に取り組んでおります。

カスタマーサクセス活動においては、顧客との関係強化に向けた定期的な面談の実施に加え、CLOMO MDMの基本的な利用方法から、より効果的な活用方法までを学べる「CLOMO ステップアップセミナー」を月数回開催しており、当第2四半期連結累計期間においては、延べ1,200名以上のMDM運用担当者にご参加いただいております。このように、多くの顧客と定期的に接点を持ち、CLOMOサービスの活用を促進することで、高い継続率の維持に取り組んでおります。

開発においては、CLOMOサービスのPC資産管理市場でのシェア獲得に必要なWindowsの機能強化のほか、他社のエンドポイントセキュリティ製品との連携など、顧客のニーズに応えるための機能改善に引き続き注力しており、「Azure Kubernetes Service (AKS)」（注4）や「Xamarin」（注5）といった新たな技術の継続活用による生産性の向上を図っております。また、製品開発の一部を外部に委託するための委託先企業の開拓による開発力の増強が進んだことで、新技術調査など、将来的な製品価値向上のための研究開発活動に対してもリソースを投資しております。

これらの取り組みにより、導入社数は4,201社(前連結会計年度末に比べ286社、7.3%増加)に達しました。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による当第2四半期連結累計期間の経営成績や、当社グループが目標とする経営指標(CLOMOサービスの導入社数の増加、ライセンス継続率)への直接的な影響は極めて軽微でありました。一方で、当第2四半期連結累計期間においても、前連結会計年度に引き続き、法人利用向けスマートフォン調達の調達不調により、一部顧客において、サービスの契約開始時期が遅れが生じております。

この結果、売上高は1,314,745千円(前年同期比9.1%増)、営業利益は320,280千円(前年同期比29.5%減)となりました。

なお、サービス別の内訳は次のとおりであります。

CLOMO MDM	売上高	1,196,896千円
SECURED APPs	売上高	80,984千円
その他	売上高	36,865千円

② 投資事業

投資事業は前連結会計年度より開始した新規事業であり、2021年11月にベンチャーキャピタル子会社として株式会社アイキューブドベンチャーズを設立いたしました。また、2022年1月に当該子会社を通じてアイキューブド1号投資事業有限責任組合を設立し、CVC(コーポレートベンチャーキャピタル)として投資活動を実施しております。2022年10月及び12月に新たに2社へ投資を行い(注6)、これまでの投資先社数は4社となりました。

なお、主な投資対象はモバイル、SaaS、セキュリティ等、当社事業領域と親和性の高い企業、社会課題解決型企業及び当社グループが本社を置く九州の地場で活動している企業としております。

また、当社グループの新たな市場領域への進出及び収益源の創出を図るべく、M&Aを通じた新事業開発にも積極的に取り組んでおります。

この結果、営業損失は7,721千円(前年同期は営業損失674千円)となりました。

(注)1. 出典 デロイト トーマツ ミック経済研究所「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望」2011~2020年度、「ミックITレポート2022年12月号」2021年度出荷金額実績及び2022年度出荷金額予想。

- 株式会社NTTドコモが提供しているモバイルデバイス管理サービス。主に、社員・生徒に貸与したデバイスに対して紛失・盗難時に有効な「ロック/初期化」機能や、「カメラ制御」「利用可能アプリの制限」などのセキュリティ機能、「アプリ配信」などのデバイス管理業務効率化機能を持つ。
- Deep Instinct社が独自でサイバーセキュリティのために構築した世界で初めて(2020年12月時点でのDeep Instinct社調査による)となるディープラーニングのモデルを用いて、将来発生しうるマルウェアやゼロデイ攻撃などの未知の脅威を予測し、モバイルデバイスやPCなどの機器への侵入を未然に防

ぐエンドポイントセキュリティのソリューション。

4. マイクロソフト社が提供するコンテナ化技術。CLOMOシステムをコンテナベースとすることで、信頼性の向上や運用負担の軽減、運用コストの削減を進めている。
5. マイクロソフト社が提供するアプリケーション開発用のプラットフォーム。iOS、Android、Windowsという異なる環境で動作するCLOMOアプリケーションのソースコードを共有化することで、開発速度の向上や省力化を進めている。
6. アイキューブド1号投資事業有限責任組合の決算日は連結決算日と異なっており、当第2四半期連結累計期間においては、同組合の2022年9月30日に終了する四半期累計期間の財務諸表を連結しております。そのため、当該投資につきましては当第2四半期の連結財務諸表には反映されておられません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態については次のとおりであります。

(資産)

総資産は3,246,553千円となり、前連結会計年度末に比べ43,797千円の増加となりました。これは主に現金及び預金が202,564千円減少し、売掛金が9,563千円、その他流動資産が43,207千円、ソフトウェアが59,749千円、ソフトウェア仮勘定が45,535千円、投資その他の資産が83,197千円増加したことによるものです。

(負債)

負債は907,916千円となり、前連結会計年度末に比べ70,910千円の減少となりました。これは主に未払法人税等が74,627千円、その他流動負債が63,714千円減少し、契約負債が35,405千円、賞与引当金が29,074千円増加したことによるものです。

(純資産)

純資産は2,338,637千円となり、前連結会計年度末に比べ114,708千円の増加となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が211,893千円増加し、剰余金の配当に伴い利益剰余金が105,494千円減少したことによるものです。この結果、自己資本比率は71.9%（前連結会計年度末は69.3%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は2,134,844千円となり、前連結会計年度末に比べ202,564千円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は166,299千円（前年同期は使用した資金55,586千円）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益311,512千円、減価償却費69,806千円、賞与引当金の増加額29,074千円、契約負債の増加額35,405千円、営業活動その他の減少額87,156千円、法人税等の支払額185,677千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は265,280千円（前年同期は使用した資金1,084,290千円）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出180,976千円、その他の投資活動による支出81,171千円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は103,584千円（前年同期は使用した資金45,902千円）となりました。これは主に、配当金の支払額105,377千円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月期の連結業績予想につきましては、2022年8月9日公表の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,337,409	2,134,844
売掛金	234,349	243,912
営業投資有価証券	149,992	149,992
その他	58,597	101,805
流動資産合計	2,780,348	2,630,555
固定資産		
有形固定資産	31,901	34,403
無形固定資産		
ソフトウェア	51,537	111,287
ソフトウェア仮勘定	169,222	214,758
その他	6,083	8,690
無形固定資産合計	226,843	334,735
投資その他の資産	163,662	246,859
固定資産合計	422,406	615,998
資産合計	3,202,755	3,246,553
負債の部		
流動負債		
買掛金	59,190	62,141
未払法人税等	185,677	111,050
契約負債	496,925	532,331
賞与引当金	49,866	78,940
その他	187,166	123,451
流動負債合計	978,826	907,916
負債合計	978,826	907,916
純資産の部		
株主資本		
資本金	404,412	408,030
資本剰余金	304,412	308,030
利益剰余金	1,511,877	1,618,276
自己株式	△661	△774
株主資本合計	2,220,039	2,333,562
新株予約権	1,950	3,260
非支配株主持分	1,938	1,814
純資産合計	2,223,929	2,338,637
負債純資産合計	3,202,755	3,246,553

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
売上高	1,205,418	1,314,745
売上原価	169,149	279,692
売上総利益	1,036,268	1,035,052
販売費及び一般管理費	582,677	722,493
営業利益	453,591	312,559
営業外収益		
受取利息	28	19
その他	270	126
営業外収益合計	299	146
営業外費用		
その他	123	1,192
営業外費用合計	123	1,192
経常利益	453,767	311,512
税金等調整前四半期純利益	453,767	311,512
法人税等	139,733	99,743
四半期純利益	314,034	211,769
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△124
親会社株主に帰属する四半期純利益	314,034	211,893

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	314,034	211,769
四半期包括利益	314,034	211,769
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	314,034	211,893
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△124

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	453,767	311,512
減価償却費	22,527	69,806
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,181	29,074
受取利息	△28	△19
売上債権の増減額 (△は増加)	△25,451	△9,563
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,691	2,897
前受収益の増減額 (△は減少)	△547,718	-
長期前受収益の増減額 (△は減少)	△100,056	-
契約負債の増減額 (△は減少)	535,517	35,405
営業投資有価証券の増減額 (△は増加)	△149,992	-
その他	△11,044	△87,156
小計	179,028	351,958
利息及び配当金の受取額	28	19
法人税等の支払額	△234,644	△185,677
営業活動によるキャッシュ・フロー	△55,586	166,299
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△1,000,000	-
有形固定資産の取得による支出	-	△3,133
無形固定資産の取得による支出	△82,635	△180,976
その他	△1,655	△81,171
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,084,290	△265,280
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	6,375	1,905
配当金の支払額	△52,277	△105,377
自己株式の取得による支出	-	△112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△45,902	△103,584
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,185,780	△202,564
現金及び現金同等物の期首残高	2,306,485	2,337,409
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,120,705	2,134,844

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	CLOMO事業	投資事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,205,418	—	1,205,418	1,205,418
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,205,418	—	1,205,418	1,205,418
セグメント利益 又は損失(△)	454,266	△674	453,591	453,591

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	CLOMO事業	投資事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,314,745	—	1,314,745	1,314,745
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,314,745	—	1,314,745	1,314,745
セグメント利益 又は損失(△)	320,280	△7,721	312,559	312,559

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。